

佛書解說大辭典

大東出版社藏版



ISBN4-500-00288-X

昭和8年8月20日 初版発行
昭和39年11月20日 改訂発行
昭和56年6月20日 重版発行

仏書解説大辞典 第六卷
¥8000

版權
所有

編纂者 小 野 玄 妙
発行者 岩 野 真 雄
印刷者 村 雲 二 郎

発行所 株式会社 大東出版社

東京都文京区白山1丁目37番10号
電話 (816) 7607

印刷所 株式会社 平 文 社

4384

ISBN4-500-00294-4 C3515 ¥8000E

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小冊子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に内容解説を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。即ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮内省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より偽經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採録した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。即ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其内容解説にあつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解説をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解説するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類即ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出来る丈内容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、①題名、書名、具名略名異名併記。②卷數。③存、缺。④著者又は譯者、生存年代を併記。⑤著作年代又は譯出年代。⑥内容解説。⑦末書（注釋書參考書）。⑧寫刊の年月。⑨現所藏者、圖書館書庫名。⑩發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は⑧⑨を省略し、第三類は特に⑨の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は⑩の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は⑦の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が⑥に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

- ①、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本語、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本語の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に従つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異なる點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に従つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に従ふことにした。
- ②、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の異なる場合あるものは一々これを附記した。
- ③、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。Z——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥棕撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋教錄。貞元錄——貞元新定釋教目錄。佛全——大日本佛教全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

④ 著者又は譯者は其人の生存年代を出来る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に譲るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西暦を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中——線を用ひ、「年代——年代」なるは生死年を、「年代——」は生年、「——年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「——年代——」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「？」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸説あるものは其中の一を採用若しくは一説として別出したものがある。

⑤、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

⑥、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典翻譯に關する歴史的説明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所に於て説明した。例へばクの部「俱舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨俱舍論」と記し、詳細なる解説はアの部「阿毗達磨俱舍論」に於てなしたるが如し。

⑦、注釋書參考書は典據を出来る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に従つて列舉した。

⑧、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

⑨、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都（東寺）專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下に數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者（書庫）、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

上京日次記

①(日)Jo-kyō-nichi-ji-
②一卷 ③存、眞宗全書第七〇 ④大

源(寶曆九—文化元 A.D. 1759—1804)記

⑤眞宗本派の三業惑亂に關する「資料」し

⑥著者が享和三年六月、公命に應じて京

都二條公儀所に出頭辯論せる時の自筆の日

記である。尙その翌年(文化元年)正月、東

都に登れる際の日記は續反正紀略卷五に收

められてゐる。(高千穂徹)

上行所傳三大秘法口決

①(日)Jo-gyō-shō-den-san-dai-hō-kō-ketsu

②一篇 ③存、日蓮宗々學全書第三興尊全

集之内 ④日興(寛元四—正慶二)A.D. 1246

—1333)述

⑤日蓮の三大秘法(本尊、題目、戒壇)につ

き、これを戒定慧三學に配當して

一、本門壽量大成 ①名無作圓戒、

②名本門壽量大成壇、

③虛空不動定

一、本門壽量本尊 ①本門無作大定

②本門無作事一念三千

③虛空不動慧

一、本門壽量妙法 ①名自受用本分、

②蓮華經 ③無作圓慧

とし、三大秘法の依文は神力品であるとい

決し、「能持是經者」以下の偈文を末法(時)

の立場、本化(人)の立場に於て釋したもの

であるが、其の裏書には「受持即受戒」と

説いて法報應三身を三學(戒定慧)三諦(假
空中)三業(身口意)に配當する等の口訣が
記されてゐる。(馬田行啓)

上行菩薩結要付囑口傳

①(日)Jo-gyō-bo-satsu-kechi-yō-tō-coku-kū-

den. ②上行菩薩御付囑口傳結要付囑鈔

③存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖

人全集第五之内 ④日蓮(貞應元—弘安五

A.D. 1222—1282)述 ⑤弘長二(A.D.

1262)説建治元(A.D. 1275)

⑥法華經見寶塔品、勸持品、涌出品、囑累

品並に天合三大部以下の論疏を引いて、妙

法五宗が上行菩薩に結要付囑の法體である

旨を説き、此の法體は佛滅後の末法に弘布

せらるべきもので、今日蓮の弘めるところ

が即ちこれであると斷じた書である。

⑦(參考) 録外考文卷下 (馬田行啓)

⑧上宮記 ①(日)Jo-gū-ki. ②三卷

③存、淨土眞宗教典第三

④上宮皇子傳 ①(日)Jo-gū-ō-jiden.

②一卷 ③存、④明和二刊 ⑤(正大、四

八・一〇三七)

⑥上宮皇本願緣起講式 ①(日)Jo-

gō-hon-gwan-en-gi-kō-shiki. ②一卷

③存、④寫本(龍大、研史)

⑤上宮皇太子菩薩傳 ①(日)Jo-gū-

ko-tai-ō-jō-butsu-den. ②一卷 ③存、

續群書類從第八、大日本佛教全書第一一二

卷 ④思託(一延暦末 A.D. 809年七十餘)

撰 ⑤本書は延暦僧錄の一部にして、聖德太子

平氏傳難勘文に出づる法空の所見によれば

同書の第二卷に收むるものであつた。延暦
僧錄は今は散佚して、東大寺要錄、扶桑略
記等に其の逸文に接し得るのみである。而
して内容は専ら慧思と太子と聖眞とを關係
づけんとしたもの、即ち南岳慧思禪師の轉
生思想に關聯を存するものである。

上宮聖德太子傳補闕記

①(日)Jo-gū-shō-toku-tō-jō-den-tō-ketsumaki.

②一卷 ③存、群書類從第四輯之内、大日

本佛教全書第一一二聖德太子傳叢書之内

④弘仁以後延喜一七以前(A.D. 833—917)

⑤本書は先づ補闕記とあれば、是れより先

の太子傳に對する補遺を主眼とするもので

あることが知れる。然に該原本は詳かでない

が、本書は日本紀を日本書紀と書の字を

加へて引くから、著作年代はこの稱呼の囑

矢たるべき弘仁私記序文より降ると見、又

延喜十七年撰著にかゝる聖德太子傳曆の跋

文に其の書名の見ゆる事によりて同年以前

の編纂なることは疑を容れぬ。本書の内容

は卷頭に、日本書紀曆録并に四天王寺聖德

王傳に記す行事奇異の狀、未だ委曲を盡さ

ぬから著者を訪ね古記を探り調使膳臣等二

家の記を讀み得て録したものと云へば、こ

れを以つて其の大體を察知することが出

來、太子傳研究に貴重なる文獻となつて居

る。就中、三經疏製作の年月并に子孫男女

二十三主を擧ぐるが如きは、前者は上宮聖

德法王帝説の闕を補ひ、後者は帝説と殆ん

ど規を一にして何れも史家の據る所となつ

た。(藤原猶雪)

上宮聖德法王事略

①(日)Jo-gū-shō-toku-hō-jō-jyaku. ②(參考) 淨土

眞宗教典第三

③上宮聖德法王帝説 ①(日)Jo-gū-

shō-toku-hō-jō-tō-jō-sen. ②上宮法王帝説、

聖德法王帝説、法王帝説、帝説 ③一卷

④存、大日本佛教全書第一一二、群書類從

第六四 ⑤不詳(某史家は知恩院所藏國寶

古寫本の傳得者相慶を著者に誤る) ⑥不

詳、奈良朝以前(本書の内容及び知恩院本

の書風字體假名等の研究により古事記撰定

以前に考定、A.D. 633—711)

⑦本書の内容は先づ聖德太子の御誕生に筆

を起して太子の御血統を、兩親及び兄弟、

三妃及び其の子女、孫及び姪、祖父及び叔

父母に亘つて叙し、次で御行蹟并に薨後の

ことに及び、元興寺と四天王寺の創建、爵

位十二級の制定、御生誕及び御稱號の由

來、佛教學並に天文地理學に對する御造詣

及び三經義疏の著述、七箇寺建立、勝鬘經

の講説、薨逝と惠慈の死を録し、其引證と

も見るべき法隆寺所藏國寶藥師如來像の光

背銘文、同じく國寶釋迦如來像の光背銘文

并に其の釋文、及び中宮寺所藏國寶天壽國

曼荼羅編張の銘文并に其の句釋を掲げ、尋

で薨逝を悼める巨勢三枝の歌、大連物部氏

の討滅と四天王寺の創建、佛教の傳來及び

排佛事件、三寶の興隆と爵位及び憲法の制

定、第一族の滅亡、大臣蘇我氏の滅亡、欽

明敏達用明崇峻推古五朝の治世崩年及び陵

墓を記し、終に御稱號御生誕御享壽及び御

墓を掲げて筆を擱く。この記事を一見する

に彼此前後し、又分出重出等ありて必ずしも整理された編著でなく、記事の統整よりも質實を主としたもの。知恩院本には他に裏書を有し、留學僧善信尼の歸朝と櫻井(豐浦)寺、僧觀勒の來朝、鞍作鳥の父祖、法隆寺奉納の掃磨の水田、淨土(山田)寺創建の由來及び蘇我石川磨の横死、蘇我日向の貶謫及び般若寺の創建、蘇我馬子の死、すべて六項記されて居る。この本の書寫は先づ平安朝時代の中葉承暦二年以前にかゝること疑ふべきでない。即ち裏書の山田寺の下に承暦二年戊午南一房寫之眞蹟之本云々とするものは裏書々寫年代を制約する最古の年時である。而して又、本文の奥には本文と墨色を異にする平安朝式草名體の花押を存し、之れに次で別筆にて傳僧相慶之とあつて、何れも今本の所藏者を示し、花押は何人なるか不詳なれど、相慶は法隆寺所藏の大般若經の長寛二年跋、并に大谷大學所藏同經の永萬二年跋文に何れも其の名見え、眞蹟と共に平安中期の現在人であつたことが知れる。さればこの傳來と相俟つて今本書寫のそれ以前にかゝることは言ふまでもない。加之今本に用ひられた古體假名、假名遣及び異體文字等の研究によりて更に年代を高め、大矢透は假名源流考に、この事を周音の事を考へる資料に採擇して、其の書體延暦弘仁に近いものと推定した。されば今本に既に晩くも平安朝初期の書寫にかゝることは疑ふべくもないから、本書の内容から見て狩谷掖齋が古事記日本紀の所作を知らざる以前の古記と考へ、伴

信友が太子の御作と傳ふる上宮記に近しと言へるに照合するものである。想ふに此れ等先進の考は本書が記紀に傳へざる所を傳へ、又本書が占部懷賢の釋日本紀并に橘寺法空の聖德太子平氏傳雜勘文の中に引く上宮記の逸文と一致する所あれば、この推定は妥當である。因に上宮記者作の年代は明でなく、法空の雜勘文等に謂ゆる太子御作の説は直に信じ得ぬとするも、太子の在世又は薨後間もなきことは疑を容れぬ。蓋し太子撰修の天皇紀國紀及び臣連伴造國造百八十部並に公民等の本紀は、その稿本は皇極四年六月蘇我氏の滅亡と共に焼失したが、僅に燒餘の殘稿は船史惠尺によりて持出され、現流の先代舊事本紀はそれと傳へ、元より推古朝の舊物にはあらざれど、其の中史家の間に國造本紀は正しと信ぜられ、又天神本紀の初と天孫本紀も據るべきものと謂はれ、已に釋日本紀の開題、近くは假名源流考等の所説と、彼此微考相俟つて帝説の成立奈良朝以前にあると推知するに足ると思ふ。終に本書の價值影響を一瞥するに、先づ推古時代の文獻歌詞の本書によりて初めて世に知られたるものあり、即ち中宮寺所藏の天壽國曼荼羅は元と太子の薨後聖王追慕の情より、王妃橘大女郎の作らしめたまふ所にして、繡張の全面に百個の龜甲を作り一個に四字を配して凡て四百字の銘文を載せ、前半は太子一族の系統を述べ後半は繡張製作の由來を示したが、之れを太子傳聖譽抄の新曼荼羅銘文に徵するに、鎌倉時代已に繡張腐朽して全面

を見るを得ず、其れより後六百年を過せる今日全幅殆ど爛脱し、辛うじて六個の斷片と四個の龜甲の殘存するのみにて銘文を知るを得ないが、本書には實に其の全文を傳へて居る。又、巨勢三枝大夫の聖王の薨逝を悼める歌の如きも他に見えざるものである。此れ等は其他と共に推古朝文學の研究に貴重なる一素材となり、古代史研究に缺くべからざる史料たる其の價值を同うし、本書の存在は其の影響重大である。即ち其の零碎なる記事によつて他の史籍では未だ知られなかつた事どもの眞實相が闡明され、就中顯著なるは太子御一門の系譜、太子の講説製疏年時、佛教渡來年時、崇峻用明兩朝在位年間の改訂、山田寺創建の由來等は何れも從來の史實を動すに至つたものである。

⑦【注釋】 上宮聖德法王帝説證註一卷、披齋符谷望之註、長田權校(明治四三刊)。補校上宮聖德法王帝説證註一卷、披齋符谷望之註、釋嶺平子尙補、稻葉品吉、中川忠順、高島圓校(大正二刊)。頭注上宮法王帝説證註一卷、披齋符谷望之證註、長田權校、春日政治頭註、正宗敦夫補頭註(昭和三年刊日本古典全集所收)。校訂頭註法王帝説一卷、春日政治校註(謄寫版)。(藤原猶雪)

上宮聖德法王帝説證註 ①(日) Jo-gu-sho-to-ku-ho-to-iei-sei-shu-sho-cha. 補校上宮聖德法王帝説證註 ②一卷 ③存 ④狩谷掖齋(安永四—天保六 A.D. 1773—1835)註、平子尙補校 ⑤明治四三刊(谷大、外大、六五六)大正二刊(高、一、二一)(龍大、二九六五・一九九)(谷大、外大・七〇一)

大、二九六五・一九九(谷大、外大・七〇一)

上宮聖德法王帝説新註 ①(日) Jo-gu-sho-to-ku-ho-to-iei-sei-shu-shin-cha. ②一卷 ③存 ④金子長吾註 ⑤明治三四刊 ⑥(龍大、二九六五・二〇〇)(帝國、一一六・一三四)

上宮太子御記 ①(日) Jo-gu-tai-shi-to-ki. ②存、國文東方佛教叢書第一輯第五傳記部第上、眞宗聖典宗祖傳寫篇 ③源爲憲(—長徳寛弘頃 A.D. 993—1011)記 ④聖德大師の傳記なり、親鸞聖人が源爲憲の撰にかゝる三寶繪詞中卷法寶の序言及び聖德太子の一段に準據して正嘉元年五月書寫したるものを、寂忍が弘安六年八月に再び書寫し、本願寺三代覺如が更に人をしてこれを書寫せしめて自ら奥書を加へたるものなりと傳ふ。

⑦【參考】 三寶繪詞卷中 ⑧徳治二寫 ⑨(本願寺派本願寺藏) (辻本鐵夫)

上宮太子御記の研究 ①(日) Jo-gu-tai-shi-gyo-ki-no-ken-kyu. ②一卷 ③存 ④橋川正(明治二七—昭和六 A.D. 1891—1931)著 ⑤大正一〇刊 ⑥京都丁字屋書店

上宮太子讚嘆式 ①(日) Jo-gu-tai-shi-san-dan-shiki. 聖德太子讚嘆式 ②一軸 ③存 ④寶曆九寫 ⑤(金剛三昧院)

上宮太子慈視錄 ①(日) Jo-gu-tai-shi-ji-shi-roku. ②一卷 ③存 ④宗興(文化一一—明治一三 A.D. 1815—1880)記 ⑤慶應二刊 ⑥(谷大、餘大、三八四九)(龍大、二九六五・二〇一)

上宮太子實錄

① (日) Jo-gu-tai-shi
-his-toku. 聖德太子實錄 ② 一卷 ③ 存

④ 久米邦武著 ⑤ 明治三八刊 ⑥ (谷大外
洋・九六三) 龍大、研史(帝國、九一・一四)

上宮太子釋氏意法

① (日) Jo-gu-tai-shi-shaku-shi-kem-po. ③ 存 ⑤ 文政

七刊 ⑥ (龍大、研真)

上宮太子拾遺記

① (日) Jo-gu-tai-shi-shu-iki. ② 七卷 ③ 存、大日本佛教

全書第一一二聖德太子傳叢書 ④ 法空(一正
和三 A.D. 1314)撰

⑤ 法空が本書を著すに至つた動機と目的に
就いては其の末尾にある起請文の中に「凡

此中所載者、徒勘本説明據、更不引胸
應不實之事。設適有私料簡之事。此詳安

私言。故都不可混其本據之事者也。而
當世專爲誣無知之俗人引世間之財利、

不勘正說之本據。作出無窮之虛端。不
實之祕事。冥慮實難測。當果尤可悲。然

而若對此等之嚴重國史。不朽批文等。當
世浮説。是非邪正。宛如照鏡。歟。」と

あるによつて明かである。即ち、著者は當
時既に太子傳に關して虛妄の浮説が行はれ

漸くその實録が忘れられんとしつゝあるを
遺憾とし、廣く和漢の群書を採つて從來存

する太子の所傳を集成補註して以てその眞
實を後世に傳へんとしたものである。本文

はすべて諸書よりの引用文を以て成り、一々
其の出典を明にし所々に私云として著者の

見解を述べてゐる。

本書の記載は往々にして神怪奇異の説が
多くない。この事は一面當時に於ける太子

信仰の盛んであつた事實を物語るものであ
るが、かゝる記載を以て稍もすれば本書の

史的價值を疑ふ人があるが、それは之等の
記載から直ちに歴史的事實を求めんとする

が爲に起る誤であつて之等の記載を以て當
時に於ける思想上信仰上の事實を物語るも

のとして取扱ふ時に初めてそれが太子研究
の一史料として眞價を發揮するものであ

る。(不破幹雄)

上宮太子聖德王

① (日) Jo-gu-tai-shi-to-ku. ② 一卷 ③ 存 ⑤ 姉崎正

治著 ⑥ 大正九刊 ⑦ 東京丙午出版社

上宮太子像解説

① (日) Jo-gu-tai-shi-zo-kai-setsu. ② 一冊 ③ 存 ⑤ 平子

鐸嶺、中川忠順共著 ⑦ 刊本(立大、B 一
八・一)

上宮太子傳

① (日) Jo-gu-tai-shi-den. ② 一卷 ③ (參考) 淨土眞宗教典志

第二

上宮太子廟參拜記文

① (日) Jo-gu-tai-shi-byo-sam-pai-ki-mon. ② 一卷

③ 存、弘法大師全集第一四雜部(眞偽未決
部) ④ 空海記と稱すれども蓋し偽作であ

る。⑤ 弘仁元年河内國上宮太子の御廟に一
百日間參籠して靈告を受けて八月十五夜に

之を記述したと云ふのである。

上宮太子遺言記註

① (日) Jo-gu-tai-shi-yui-gon-ki-chu. ② 一軸 ③ 存

上宮法王帝説

① (日) Jo-gu-ho-to-
tei-setsu. 上宮聖德法王帝説、聖德法王帝

説、法王帝説、帝説 ② 一卷 ③ 存、大日

本佛教全書第一一二、群書類從第六四

上宮法王平氏傳 ① (日) Jo-gu-ho-hei-shi-den. 聖德太子傳曆 ② 四卷或二

卷 ③ 存、大日本佛教全書第一一二、續群
書類從第八 ④ 聖德太子傳曆の下を見よ。

⑤ 寫本(谷大、餘大・三七五六)

上下還宮法則

① (日) Jo-ge-sen-ga-ho-soku. 上下還宮法則三輪流私 ③ 存

上下問答集 ① (日) Jo-ge-mon-do-shu. ② 一冊 ③ 存 ⑤ 寫本(高大、一一一四)

上下兩經疏

① (日) Jo-ge-ryo-kyo-sho. 彌勒上下兩經疏 ② 一卷 ③ (參考)

東域傳燈目錄卷上

上下兩經疏

① (日) Jo-ge-ryo-kyo-sho. 彌勒上下兩經疏 ② 三卷 ③ 善珠(神

龜元一延曆一六 A.D. 724-797)述 ④ (參
考) 東域傳燈目錄卷上

上下兩經註 ① (日) Jo-ge-ryo-kyo-chu(支)Shang-hsia-liang-ching-chu. 彌

勒上下兩經註 ② 三卷 ③ 存

上下兩經遊意

① (日) Jo-ge-ryo-kyo-yu-i. (支)Shang-hsia-liang-ching-yu-i. 彌勒上下兩經遊意 ② 一卷 ③ 唐代

上下兩宗要並序

① (日) Jo-ge-ryo-sha-yo-narabini-yo(支)Shang-hsia-liang-
ng-tsang-yao & hsu. 彌勒上下兩宗要並序

② 一卷 ③ 新羅元曉(眞平王三九 A.D. 617
一)述

④ 彌勒上生經宗要一卷、現に大正藏經(三
八・二九九 No. 1773)等に收めらる。

⑤ (參考) 東域傳燈目錄卷上

上顯戒論表

① (日) Jo-ken-kai-ron-hyo. ③ 存、傳教大師全集第四叡山大師

傳。傳述一心戒文上。

④ 本上表文は傳教大師全集編者が叡山大師
傳(別傳ともいふ)と傳述一心戒文とに收め

てある二首を「天台遺稿」初篇卷一(佛全
一二五・一九)及び宗淵師撰「顯揚大戒論

緣起」から抄出したもの。本上表文製作の
由來は叡山大師傳の弘仁十一年の條(傳教

大師全集別卷一〇一)と一心戒文上の「荷
顯戒論」達「嚴上」(同上別卷一七三)と

に出づ。猶、本上表及び顯戒論撰述の事情
は「永德記」卷三にも記されて居る。別傳

の上表と一心戒文の上表とは其大旨に至つ
ては同一であるが、文章は頗る廣略の相違

がある。實際上上表したものは二首の中何
れであるか不明。文章の簡潔なるは別傳の

上表であり、叙述の詳細なるは戒文の上表
である。戒文は轉寫數次の結果か、或は草

案本を筆寫する時に混亂せしめた結果か甚
しく難讀の箇所が多い。戒文は「弘仁十

二年二月二十九日。先師の命を承け云云」と
記し、次に「某年十一月二十一日。表を荷

記して殿上に達せしむ。彼の表文に云く」と
記してある。このために宗淵師は上表を

「弘仁十一年十一月二十一日」附としてゐ
るが、これは戒文の文章が悪いのである。

ここは下の如くに讀むべきであらう。「弘仁十一年二月二十九日先師（傳教大師）の命を承けて表を荷して殿上に達した。これより先き、其年二月二十一日先師から云云の命があつた。彼の表文とは」と讀めば善いだらう。要するに戒文は光定の草稿本のままを誰人が寫した爲めに、修文が出来てゐないばかりでなく、文章の連絡が整頓されてゐない。上記の如く讀むならば別傳の上表と日附が一致する。但し戒文と別傳との上表文中最も相違してゐる點は、年分度者の記述である。戒文には「去る大同二年より弘仁九年に至るまで兩業の度者二十四口」とあるのに、別傳は「弘仁十一年に至るまで合して一十四箇年。兩業の度者二十口」と記してある。十一年の上表文であるから「弘仁十一年」の度者を數へても正しきであるが「二月二十九日」であるから十一年の度者は未だ決定してゐない筈だ。試度は恐らく三月十七日の桓武天皇忌日に行れたと考へられるからだ。度者數は戒文の「弘仁九年」までとする方が上表文の如き公式の文書の場合にあつては正しい記し方であると思ふ。或る學者が別傳を仁忠撰なりや否や疑つてゐるが、本表文の「弘仁十一年二十八口」説の如きは如何かと考へられる。若し別傳が仁忠撰であつて疑ひなしとすれば、光定撰の戒文と一致しないから。傳教大師門下に仁忠系と光定系との對立があり、又義貞・圓澄系と仁忠系との對立が行はれ、戒壇建立運動即ち純大乘戒學理論構成に就いて傳教大師生前から既に

弟子の間に内面的に對立的な狀態が続けられてゐたと推定される。若し然りとすれば仁忠系の別傳と戒文とは對立的態度の表現である。光定に戒文の製作があれば必ず仁忠系にも大乘戒學に關する記録が編輯されて然るべきであらうと思ふ。何れにしても本上表は仁忠光定兩師の態度を觀察する場合に於ける最も興味ある文獻であり、又戒壇建立史研究上貴重な文獻である。

⑦〔參考〕延曆寺故内供奉和上行狀（續群、八下）別當和尚行狀（佛全、二八ノ一三二八）（田島德音）

上巨方印信十七通

①（日）Jo-kō-gata-in-jin-jō-shichū-ssu. ②一裏 ③存

④海元（文政三）明治三四 A. D. 1820-1902 記 ⑤德川時代寫 ⑥（寶龜院）

上金光首經

①（日）Jo-kōn-kō-shu-kyō (支) Shuang-ching-kuang-shou-ching.

②一卷 ③缺 ④前凉支施高（一咸安三A. D. 373）譯 ⑤第二譯 ⑥〔參考〕開元錄第一、貞元錄第二四

上金字仁王般若經表

①（日）Jo-kōn-jin-nō-bō-han-nyō-kyō-lyō. ②存、傳教大師全集第四 ③最澄（神護景雲元一弘仁一三A. D. 767-823）撰

④本上表は傳述一心戒文上の「承」先師命・建「大乘寺」文（傳教大師全集別卷一六三）の中に收められてゐるものを、慈本師が天台霞標二之一（佛全一五ノ一三八）に採萃した。それを全集編者が載録したもの。一心戒文は草稿本であるために文章が錯雜晦澁容易に讀破し難い。本上表文も弘仁九年の

祈雨の上表であることだけは明らかであるが月日は明確でない。この故に日本邊史、日本紀略によつて弘仁九年の祈雨の條を見るに「夏四月丙辰（三日）遣使京畿祈雨。〇四月乙亥（二十二日）奉幣伊勢大神宮。又令諸大寺及畿内諸寺山林禪場等、轉經禮佛、祈雨也。〇四月丙子（二十三日）是日。詔曰云云。去年秋稼燠傷不收。今茲新苗播植絕望。朕之不德。百姓何辜云云今貧畏天威。避茲正殿。分使走幣。偏於群神。其朕及后服御物并常膳等並宜省減。〇又詔。比者陰陽愆候。炎旱淹旬。云云。起自今月二十六日。迄于二十八日。惣三箇日。朕及公卿百官。一皆素食。歸心覺門。凡厥僧綱。精轉經。以副懷懷。〇丁丑（二十四日）大和國吉野郡雨師神奉授從五位下。以祈雨也。〇己卯（二十六日）遣使柏原山陵（桓武天皇）祈雨。〇庚辰（二十七日）於前殿講仁王經。緣旱災也。とある。この記事によつて本上表の文が理解し易くなる。本上表は勅を奉じて四月二十六日から二十八日まで三箇日間、叡山に九院を定め、金光明・仁王・法華の三部長講會を修した。そして第四日に當る四月二十九日の夕方、光定は本上表を奉持して良峯右大辨の曹司へ到り、良峯右大辨へ渡した。右大辨は光定を率ひて參内し、天皇に奉つた。天皇から優詔を拜して光定は叡山へ歸つて先師（傳教大師）へ復命した。先師は咲を含むで始終を聞かれた。以上が本上表を奉つた月日等の事情である。本上表は四月二十二日の勅を奉じて三日間轉經精

進し奉つた。轉經は一心戒文で見ると護國三部經の長轉長講であるが、この時に傳教大師は仁王經を書寫し、仁王經を天皇に奉つた。故に仁王經の教化品・護國品・受持品の所説を對句に記して護國消災、七難即滅の教義を述べ勅答に擬し奉つてゐる。前後の事情は一心戒文に詳述してある。この祈雨の後から大乘寺建立上表即ち菩薩戒壇獨立上表が倍強くなり、傳教大師最澄が全力を投じて起した一大運動となつたのである。本上表は何等直接戒壇問題には觸れてゐないが、祈雨の効驗が大乘寺建立に關係があることは戒文によつて明かされる。又延曆寺戒壇院知事光定の傳研究上注意すべきことが、本上表文を朝廷へ捧呈する記事に現されてゐる。其の一は「登山の日、先師（傳教大師）咲を含み一乘定なる號を授けられた」といふのと、其二は「他人あり云く、僧光定は師事不信の者なり」といふのがそれである。光定の傳は智證大師全集第四（佛全二八）、續群書類從八下に光定の弟子圓豐が記したものが載録してある。

⑦〔參考〕傳述一心戒文上。延曆寺故内供奉和上行狀（續群、八下）別當和尚行狀（佛全、二八ノ一三二八）（田島德音）

上七集

①（日）Jo-shichi-shū. (支) Shang-chi-chi. ②十卷 ③〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄2776

上生經疏

①（日）Jo-shō-gyō-shū. (支) Shang-sheng-ching-shū. 彌勒上生經疏、彌勒上生經宗要、上生經宗要 ②一卷

③存、大正三八・二九九No. 1773、已續1。

三五・四 ①新羅元曉(眞平王三九 A. D. 617-)述 ②彌勒上生經宗要の下を見よ。
③(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

上生經宗要 ①(日)Jo-shō-gyō-shū
yō. (支)Shang-shēng-ching-tsung-yaō.
彌勒上生經宗要、彌勒上生經疏、上生經疏
①一卷 ②存、大正三八・二九九 No. 1773
③續一・三五・四 ④新羅元曉(眞平王三九
A. D. 617-)述 ⑤彌勒上生經宗要の下を
見よ。 ⑥(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

上生經瑞應科文 ①(日)Jo-shō-
gyō-zui-ō-kwa-mon. (支)Shang-shēng-
ching-jui-ying-ko-wēn. 彌勒上生經瑞應
鈔科 ①一卷 ②存、記續一・三五・五 ③
宋代守千集 ④寫本(京大・藏・一一・四)
寫真版(京大・藏・一一・三)

上生經瑞應鈔 ①(日)Jo-shō-gyō-
zui-ō-shō. (支)Shang-shēng-ching-jui-
ying-chiao. 彌勒上生經瑞應鈔 ②二卷
③存、記續一・三五・五 ④宋代守千述 ⑤
寫本(京大・藏・一一・五)

上生兜術天法 ①(日)Jo-shō-to-jū-
tsu-tem-pō. ①一卷 ②存、慈方(一明和三
A. D. 1766-)述 ③刊本(谷大・餘小・四七)

上生兜率好夢十因 ①(日)Jo-shō-
to-sōsu-kō-mu-jū-in. 好夢十因 ②二卷
③存、眞言宗安心全書卷下第四都率往生篇
④知道撰 ⑤弘安九(A. D. 1282)一月九日
⑥好夢十因の下を見よ。 ⑦文政四刊 ⑧

上新請來經等目錄表 ①(日)Jo-
shin-shō-rai-kyō-tō-moku-roku-jō. 御

請來目錄、御請來經等之目錄 ②一卷 ③
存、大正五五・一〇六〇 No. 2161、大日本
佛教全書佛教書目録第二、弘法大師全集
第一 ④空海(實龜五一承和二 A. D. 774
—835)作 ⑤御請來目錄の下を見よ。 ⑥
徳川時代寫 ⑦(寶善提院)(寶龜院)

上世印度宗教史 ①(日)Jo-sei-in-
ō-shū-kyō-shi. ②二冊 ③存 ④姉崎正
治著 ⑤明治三三刊 ⑥(高大・一・二七)
(立大・B二・三・九)

上世支那佛教學史 ①(日)Jo-sei-
shina-buk-kyō-gaku-shi. ②二冊 ③存
④佐々木憲徳著 ⑤大正九刊 ⑥京都興教
書院

上台山大王書 ①(日)Jo-dai-san-
dai-ō-shō. ②一冊 ③存 ④慈等(一文
政二 A. D. 1819)撰 ⑤寫本(京大・日大・未
二八・一)

上智慧輪三藏決疑表 ①(日)Jo-
chī-e-rin-san-ō-ketsu-hyō. ③存、大
日本佛教全書第一一三遊方傳叢書 ④圓珍
(弘仁五一寛平三 A. D. 814—891)說寛平
四、年七八(寂)撰

⑤圓珍が入唐中長安に於て受教せし智慧輪三
藏に、歸朝後元慶六年疑問を決せんとした
書狀である。智慧輪三藏は大興善寺不空三
藏の法孫にして西域の人般若研迦のことと
ある。

書狀の内容は圓珍歸朝後に送りし書狀に
對し咸通二年(日本、貞觀三年)三藏の復
書並に新經法并決義等八本を贈られた。圓
珍は更に詹景全に書狀を托送したが、路難

の爲に通ずることを得なかつた。今此に元
慶六年七月十五日再び書狀を托し疑義を質
問し、また沙金五十兩を贈り未傳の聖教を
贈與せられんことを請ひしものである。原
本圓城寺に珍藏せられる。(塚本善隆)

上天竺生錄 ①(日)Jo-ten-ko-shō-
roku. ②二卷 ③存 ④(參考) 禪籍目録
上天竺講寺志 ①(日)Jo-ten-jik-
kō-jī-shi. (支)Shang-tien-chu-chiang-ssā-
chih. 杭州上天竺講寺志 ②十五卷 ③
存、武林掌故叢編第二五 ④明代廣賓撰

⑤杭州上天竺寺には舊李金庭の寺志ありた
るも、附會舛謬の個所多かりしため、明廣
賓刪補して此書を撰す。共に拾五卷、普門
示現品、尊宿住持品、器界莊嚴品、帝王禮
越品、宰官外護品、風範隆汚品、詩文紀述
品の凡七門に分つ。尙此外に卷首壹卷あり
たるも已に佚して傳らず。然して普門示現
品には靈奇靈感感應等に就き誌し、尊宿住
持品には歷代住持の題名并に列傳を載する
外、教門、清規を記す。第三の道場規制品
には堂塔建立の歴史、堂内の像設に就きて
詳述す。(此品四庫全書總目提要になし)次

の器界莊嚴品には寺邊の山川、物産、施田
を、帝王禮越品、宰官外護品の二品には
各朝并に諸官官の優遇庇護に關する事項を
記載し、風範隆汚品には此寺の僧侶の善惡
に就き忌憚なき評判を加ふ、實に他志に無
きところにして其直筆を存す。最後の詩文
紀述品には歷代の此寺に遊びたる詩人墨客
の吟詠或は紀讀を輯めて遺すところなし。

要は此寺志は他志に比して風範隆汚品に於

て其特徴を見ると云ふべし。

光緒二三錢唐丁酉刊 ①刊本(谷大、外
大・一五六九)

**上都雲華寺泳字大觀法師泰答
皇太子所問諸經了義並牋** ①(日)
Jo-to-un-gō-jī-ei-jī-dai-kwan-hos-shi-jō
-ō-kō-tai-shi-shō-mon-shō-kyō-ryō-gi-
narabini-sen. (支)Shang-tu-yün-hua-ssā-
yung-tzā-ta-kuan-fa-shih-feng-ta-huang-
-t'ai-tzā-so-wēn-chu-ching-jiao-i-ō-chien.
②一卷 ③(參考) 日本國承和五年入唐求
法目錄

上都清禪寺至演禪師鍾傳
①(日)Jo-to-shō-zen-jī-shi-en-zen-jī-shō-
-den. (支)Shang-tu-ching-ch'an-ssā-chih-
-yen-ch'an-shih-chung-chuan. ②一卷
③大理牛肅與僧至演同敘 ④(參考) 日本
國承和五年入唐求法目錄

**上都薦福寺臨壇大戒律師碑
文** ①(日)Jo-to-sem-puku-jī-rin-dan-
-dai-kai-toku-ris-shi-hi-mon. (支)Shang-
-tu-chien-fu-ssā-jin-fan-ta-chieh-tē-jū-
-shih-pe-wēn. ②一卷 ③(參考) 智證大
師請來目錄

上堂法語入寺並疏 ①(日)Jo-dō-
-jō-go-nyū-jī-narabini-shō. ②一卷 ③存
④寫本(京大、印哲、S三・三八)

上表文御釋目錄 ①(日)Jo-hyō-
mon-on-shaku-moku-roku. ②一帖 ③存
④寫本(金剛三昧院)

上品資糧 ①(日)Jo-bon-shi-ryō.
(支)Shang-pin-tzā-jiang. ②一卷 ③存

名所行發④(名庫書)者藏所現⑤ 月年の刊寫⑥(書考參書釋注)書本⑦ 説解容内⑧ 代年作者⑨ 著者⑩ 缺有⑪ 數卷⑫ (名書名題⑬ 號略字數

① 清古崑(一光緒元 A. D. 1875-)撰 ② 光緒二刊 ③ (龍大、研真)

上列並三昧耶戒作法事

① (日) Jo-etsu-
-retsū-narabini-san-ma-ya-kai-sa-hō-no-
-koto. ② 一軸 ③ 存 ④ 鎌倉末期寫
(寶菩提院)

上六集

① (日) Jo-roku-shu. (支)
Shang-hu-chi. ② 八卷 ③ (參考) 奈良
朝現在一切經疏目錄2775

大雪醉禪師語錄

① (日) Jo-setsu-
sui-zen-ji-go-roku. (支) Chang-hsueh-
tsui-chen-shih-yü-lu. ② 二卷 ③ 存 ④
清代大雪醉語、微綱等編 ⑤ 刊本(駒大)

成行無想經

① (日) Jo-gyō-mu-sō-
kyō. (支) Ch'eng-hsing-wu-hsiang-ching.
② 一卷 ③ 缺 ④ 失譯 ⑤ (參考) 出三藏
記第四、武周錄第二、開元錄第五、第一
五、貞元錄第八、第二五

成具光明定意經

① (日) Jo-gu-kō-
myō-jō-i-kyō. (支) Ch'eng-chū-kuang-
ming-ting-i-ching. 成具光明經、成具光三
昧經、成具光明三昧經 ② 一卷 ③ 存、大
正一五・四五一 No. 630、縮印二、正一一・
三、北362必、南375過、元370必、明北377
彼、清377彼、麗384過、天370必、指333
過、法335男、至371能、明南352男、Nj.
361 ④ 後漢支曜(一中平二 A. D. 185-)譯
⑤ 本經は一に成具光明經、成具光三昧經、成
具光明三昧經ともいひ、成具光明三昧(定
意)を説くことからこの名が存するのであ
る。本經は佛長者子善明に對して成具光明
三昧を説き、その實現と學法とを明すもの

で、佛長者子善明の供養に大衆と共に臨み、
神變自在を示し、六徳即ち六波羅蜜を詳述
し、成具光明定意の法を行じてこの神力を
得ることを示し、更にこの成具光明定意に
關する過去佛の説法を説き、善明に記莂を
授け、佛阿難に爾等の微笑の所以を説き、
大力普平菩薩をして成具光明三昧の威神を
示現せしめ、善明の問ひに答へて、男女賢
凡四種の輩のこの三昧の學法を説かれたも
のである。

本經はその所説の内容よりして、大乘空
觀の香りの高いものであつて、殊にその六
波羅蜜の説述の如きは、明に空思想に基
き、大小乗の渾然として融合した時代に成
立したの様の様であり、その譯語の如きも、
後には次第に廢語となつたものが多く、佛
教傳來初期の消息を物語る極めて古いもの
である。(林五邦)

成合雲山和尚語錄

① (日) Jo-gō-
un-zan-o-shō-go-roku. 雲山和尚語錄 ②
一卷 ③ 存 ④ 愚白雲山(元和五)元祿一
五 A. D. 1619-1702)語、智雄編 ⑤ (駒大)

成業疏

① (日) Jo-gō-shō. (支) Ch'eng-
-yeh-shu. 成業論疏 ② 一卷 ③ 缺 ④ 唐
代文備述 ⑤ (參考) 諸宗章疏錄第二

成業論

① (日) Jo-gō-ron. (支) Ch'eng-
-yeh-lun. 大乘成業論 ② 一卷 ③ 存、大
正三一・七八一 No. 1609、縮印九、正二二・
二、北608力、南623力、元614力、明北1214
匪、清1214匪、麗610竭、天612力、指570
竭、法554竭、至1230靈、明南1235靈、Nj.
1221 ④ 世親菩薩造、唐玄奘(仁壽二)麟

德元 A. D. 602-654)譯 ⑤ 大乘成業論の
下を見よ。

成業論記

① (日) Jo-gō-ron-ki. (支)
Ch'eng-yeh-lun-chi. 成業論古述記 ② 一
卷 ③ 缺 ④ 新羅太賢(一景德王二 A. D.
753-)述 ⑤ (參考) 奈良朝現在一切經疏
目錄2396

成業論古述記

① (日) Jo-gō-ron-ko-
-shak-ki. (支) Ch'eng-yeh-lun-ku-chi-
chi. 成業論記 ② 一卷 ③ 缺 ④ 新羅太賢
(一景德王二 A. D. 753-)述 ⑤ (參考)
新編諸宗教藏總錄卷第三

成業論疏

① (日) Jo-gō-ron-shō.
(支) Ch'eng-yeh-lun-su. 成業疏 ② 一卷
③ 缺 ④ 唐代文備述 ⑤ (參考) 東域傳燈
目錄卷下、諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一
切經疏目錄2395

成業論文林鈔

① (日) Jo-gō-ron-
mon-rin-shō. 大乘成業論文林鈔 ② 存、
日本大藏經諸大乘論章疏第一 ③ 大乘成業
論文林鈔の下を見よ。

成實義疏

① (日) Jo-jitsu-gi-shō.
(支) Ch'eng-shih-i-su. ② 八卷 ③ 缺 ④
道亮述 ⑤ (參考) 諸宗章疏錄第二

成實義章

① (日) Jo-jitsu-gi-shō.
(支) Ch'eng-shih-i-chang. 成實論義記、成
實論義章 ② 二十二卷 ③ 缺 ④ 唐懷素
(一永淳元 A. D. 682-)述 ⑤ (參考) 諸
宗章疏錄第二

成實玄記

① (日) Jo-jitsu-gai-ki.
(支) Ch'eng-shih-hsuan-chi. 成實論玄記、
述記 ② 四卷 ③ 宗法師述 ④ (參考) 諸

宗章疏錄第二

成實玄義 ① (日) Jo-jitsu-gen-gi.
(支) Ch'eng-shih-hsuan-i. ② 二十卷 ③
寶瓊述 ④ (參考) 諸宗章疏錄第二

成實疏

① (日) Jo-jitsu-shō. (支)
Ch'eng-shih-su. 成實論疏 ② 十卷 ③ 缺
④ 明彦述 ⑤ (參考) 諸宗章疏錄第二、東
域傳燈目錄卷一

成實疏

① (日) Jo-jitsu-shō. (支) Ch'=
eng-shih-su. ② 十六卷 ③ 缺 ④ 百濟道
藏述 ⑤ (參考) 諸宗章疏錄第二

成實疏

① (日) Jo-jitsu-shō. (支) Ch'=
eng-shih-su. ② 十六卷 ③ 元瑜述 ④
(參考) 諸宗章疏錄第二

成實論

① (日) Jo-jitsu-ron. (支) Ch'=
eng-shih-lun. ② 九卷 ③ 僞疑經 ④ (參
考) 法經錄第五

成實論

① (日) Jo-jitsu-ron. (支) Ch'=
eng-shih-lun. ② 十六卷或二十卷 ③
存、大正三三・二三九 No. 1616、縮印二、
正二四・八一九、北956西二、南984西二、
元980西二、明北1265丙舍、清1267丙舍、
麗973夏東、天973西二、指930夏東、法937
夏東、至1416輕策、明南1422典亦、Nj.
1274 ④ 訶梨跋摩述、鳩摩羅什譯 ⑤ 弘始
四一(一四 A. D. 402-412)

成實論

① 訶梨跋摩(Hariyarmān)が發智論の煩瑣
な内容に満足せずして大乘部並に大乘説に
よつて自説を立てて之を論述したので此論
であるといはるるが、論の内容からは經部
説を採用して居る點が多いと考へらるる。
經部の説の全體が明でないが爲と此論が大

乘義を有すと見らるる爲と等によつて古來大乘論が小乘論かの異説が行はれたが、大體は隋唐以後小乘論と一定するに至つたものである。小乘論としても有部説以上であつて大乘に隣接して居るといふべきであらう。内容は發露苦諦集諸乘滅諦集諸乘の五聚より成り二百二品に分れて居る。之によつて本論は佛教全體を四諦説によつて纏めたものであることが知らるるが、四諦の取扱ひは小乘的傾向を脱して居ない。苦諦集は特に色論識論受論行論の五に分たるから五陰を以て苦諦となすのであり、集諦集は業論煩惱論の二とせらるるから惑業を苦諦となすのであり、前と合せて惑業苦の三道を苦集諦となす説である。滅諦集は比較的簡單で分論なく、道諦集は定論智論に分論せらるる。以上で佛教一般が包括せられ得るが、個々の説には、成實論特有の新説もあり、優れた組織もある。然し全體としては纏まつた宗義的教學を成立せしめて居ない。従つて此論によつて修行するとなすも、どれだけの修行にどれだけの煩惱が斷ぜらるるかの如き點は闡明せられて居ない。此點は一大缺點であつて、成實宗なる一宗は實際的宗派としては到底成立し得るものでない。和漢に於ける成實宗は單なる學問系統をふに過ぎなかつたことは理の當然である。成實論の最後の理想は假名心法空心を滅して滅盡定又は無餘涅槃に入るがあるが、その滅諦空無相が果して如何なるものであるか明確にせられて居ない。本有の滅諦であるとも第一義の

有であるともいはるるが、之を全然大乘のみにみくならば、恐らく成實論の一般傾向を逸することになるであらう。成實論は全體としていへば、決して佛教中に於ける第一流の論たるものではない。

①萬曆四三刊(内閣、四・持)天和三刊(正大、一九五・三五・一三六)文政九刊(龍大、研佛)(谷大、餘大・一六四八)刊本(哲、ら・六・右・二)(京專) (宇井伯濤)

成實論 ①(日)Jo-jitsu-ron. 國譯成實論 ②存、國譯大藏經論部第一五 ③境野黃洋譯

成實論及同備目 (日)Jo-jitsu-ron-oyobi-do-bi-moku. ①一部 ②存 ③文政九、天和三刊 ④(高、一・二・四)

成實論義記 ①(日)Jo-jitsu-ron-gi-ki. (支)Ch'eng-shih-lun-i-chi. 成實義章、成實論義章 ②二十三卷 ③缺 ④唐懷素(一永淳元 A. D. 632—)述 ⑤(參考)奈良朝現在一切經疏目錄2390

成實論義章 ①(日)Jo-jitsu-ron-gi-shō. (支)Ch'eng-shih-lun-i-chang. 成實義章、成實論義記 ②二十三卷 ③缺 ④唐懷素(一永淳元 A. D. 632—)述 ⑤(參考)奈良朝現在一切經疏目錄2388

成實論義章 ①(日)Jo-jitsu-ron-gi-shō. (支)Ch'eng-shih-lun-i-chang. ②十卷 ③缺 ④惠影述 ⑤(參考)奈良朝現在一切經疏目錄2387

成實論義林 ①(日)Jo-jitsu-ron-gi-rin. (支)Ch'eng-shih-lun-i-lin. ②二卷 ③(參考)東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在

一切經疏目錄2393

成實論玄記 ①(日)Jo-jitsu-ron-gen-ki. (支)Ch'eng-shih-lun-hsuan-chi. 成實玄記、述記 ②四卷 ③宗法師述 ④(參考)東域傳燈目錄卷下

成實論疏 ①(日)Jo-jitsu-ron-sho. (支)Ch'eng-shih-lun-su. ②十六卷 ③宗法師述 ④(參考)東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄2391

成實論疏 ①(日)Jo-jitsu-ron-sho. (支)Ch'eng-shih-lun-si. ②十六卷 ③鏡法師述 ④(參考)奈良朝現在一切經疏目錄2392

成實論疏 ①(日)Jo-jitsu-ron-sho. (支)Ch'eng-shih-lun-su. 成實疏 ②十卷 ③明彦述 ④(參考)東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

成實論疏 ①(日)Jo-jitsu-ron-sho. (支)Ch'eng-shih-lun-su. ②十四卷或十六卷 ③(參考)奈良朝現在一切經疏目錄2593, 2594

成實論章 ①(日)Jo-jitsu-ron-shō. (支)Ch'eng-shih-lun-chang. ②二十三卷 ③(參考)諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄2389

成實論天長點 ①(日)Jo-jitsu-ron-ten-chō-ten. ②一卷 ③存 ④大矢透編 ⑤大正一一刊 ⑥(正大、一一九五・五二)(谷大、餘大・三六四)

成實論要文條目 ①(日)Jo-jitsu-ron-yō-mon-jō-moku. ②一冊 ③存 ④智本海應(明和八一天保四 A. D. 1771—

1833)撰 ⑤寫本(京大、日大末・一四五)

成就院口傳 ①(日)Jo-jū-ku-den. ②一卷 ③寬助(天喜五一治一)A. D. 1057—1125)撰 ④(參考)諸宗章疏錄第三

成就院五重大事等 ①(日)Jo-jū-in-go-jū-no-dai-jū-tō. ②一冊 ③存 ④享保五寫 ⑤(寶善提院)

成就院五重西院 ①(日)Jo-jū-in-go-jū-nishi-no-in. ②一裏 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

成就院別行七卷抄 ①(日)Jo-jū-in-betsu-kyō-shichi-kwan-shō. 別行、諸佛菩薩成就院別行、七卷抄 ②七卷 ③存、大正七八・一二五No. 2476 ④寬助(天喜五一治一)A. D. 1057—1125)撰 ⑤建武二寫 ⑥(高、一・六六)

成就院別行鈔受記 ①(日)Jo-jū-in-betsu-kyō-shō-jū-ki. ②十卷 ③存 ④維寶(貞享四—延享四 A. D. 1687—1747)撰 ⑤(參考)眞言宗全書刊行豫定目錄

成就戒經 ①(日)Jo-jū-kai-kyō. (支)Ch'eng-chu-chieh-king. (日)A. V. 166, Nirodha. ③存、中國合經第五(大正一・四四九No. 22・26)

成就吉祥儀 ①(日)Jo-jū-kis-shō-gi. ③存、慈雲尊者全集第九梵學編 ④寫本(龍大、二七二・一一二)(京大、一・二六・一三二)

成就三乘論 ①(日)Jo-jū-san-jō-ron. (支)Ch'eng-chi-san-ch'eng-lun. ②一卷 ③缺 ④陳眞諦(永元元—太建元 A. D. 499—569)撰 ⑤(參考)仁壽錄第五、

靜養錄第五、開元錄第一四、貞元錄第二四

成就靈養儀軌

①(日) Jo-jin-san-yō-ki. (文) Ch'eng-chia-ssan-yang-i-kiuei. 馬鳴菩薩大神力無比驗法念誦儀軌、馬鳴菩薩念誦儀軌 ②一卷 ③存、大正二〇・六七四 No. 1166、縮餘二、己續一・三・二 ④唐金剛智(成享二一開元二九 A.D. 671-741)譯 ⑤馬鳴菩薩大神力無比驗法念誦儀軌の下を見よ。

成就七寶文集 ①(日) Jo-jin-ship-pō-mon-shū. ②一卷 ③存、不如歸亭叢書之内 ④寫本(谷大、餘大・一〇・十一) 成就文會錄 ①(日) Jo-jin-no-mon-e-roku. ②存、南窓小部集卷一之内 ③寫本(龍大、一〇・四・二七)

成就文開華錄

①(日) Jo-jin-no-mon-kai-e-roku. ②一卷 ③存、法住(一明治七 A.D. 1874)述 ④安政二寫

成就文記

①(日) Jo-jin-no-mon-ki. ②一卷 ③存、晃忍記 ④(龍大、一五〇二・六一)

成就文使令訓古義解

①(日) Jo-jin-no-mon-shi-ryō-kun-ko-gi-ge. ②一卷 ③存、寫本(谷大、宗大・三一六五)

成就文聽記

①(日) Jo-jin-no-mon-cho-ki. ②一卷 ③存、寫本(龍大、一一・一一・一〇)

成就文聽記

①(日) Jo-jin-no-mon-cho-ki. ②一卷 ③存、行照(一文久二 A.D. 1862)述 ④寫本(龍大、一一・一一・一〇九)

成就法花念誦次第

①(日) Jo-jin-hō-ke-nen-jū-shi-dai. ②存、寫本(寶龜院)

成就妙法蓮華經王瑜伽觀智儀軌

①(日) Jo-jin-myō-hō-reu-ge-kyō-miao-fa-jien-hua-ching-wang-yū-chieh-kuān-chih-i-kiuei. 法華經觀智儀軌、成就法華儀軌、法華儀軌 ②一卷 ③存、大正一九・五九四 No. 1000、縮餘七、己二六・一〇、明北1331杜、清1381杜、麗1389阜、明南1187學、Nj. 1388 ④唐不空(神龍元一大曆九 A.D. 705-774)譯

⑤東密家で法華經を淺略であると爲し、大日經を深秘であると見做して居る根據は、即ち此の儀軌に依るのである。局外から冷靜に此の儀軌を通讀する者は、何人でも法華經中、殊に見寶塔品第十一に、多寶佛が寶塔中に於て、半座を分けて、釋迦牟尼佛に與くたと言はれてある(大正、九、三三三)が、此の説を中心として、密教的に曼荼羅を構成し、之を大悲胎藏大曼荼羅と呼び、妙法蓮華經を修持する者は、男であれ、女であれ、苟も眞言行を修する者は皆悉く菩薩の道を成ずることを得るものであると言はれてある(大正、一九・五九四C) (1)開經の偈文に於て、法華經の二十七品が揚げられ、四句一偈で各品の要義が明されてある。品の次第順序は、羅什譯に合致するが、第十二提婆達多品が除かれてある。品数だけで言へば、隋の闍那崛多共衆多譯の添品妙法蓮華經に合致するが、但し此の經では、最

後に置かれてある囑累品第二十七が、此の儀軌では二十一番目に擧げられて居る點が異なるのである。(2)大悲胎藏曼荼羅、(3)修行者にして六根清淨なることを求むる者は、六千の功德を満足し、法華三昧を成就すれば、現世に初地に入ることを得と説き、(4)普賢行願(讃)を一遍誦じ、心を定めて普賢行願の一一の句義を思惟し、大歡喜難遭の想を發し、結跏趺坐して、定印を結び、如來壽量品を誦じ、或はたい品中の妙義を思惟し、深く如來常住在世を信すべきを明し、(5)毘盧遮那如來の心眞言の種子は何字である。阿字は一切法本不生の義であつて、一切佛法の自性本源である。清淨法界から流出する所の一切の言教は、皆此の字を以て根本と爲すとあり、(6)壇中に於て寶峯山を成じ、山峯の上に於て、釋迦牟尼如來が、妙法蓮華經を宣説し玉ふと觀想せよ、又中に於て多寶世尊の舍利寶塔が、種々に莊嚴せられ、釋迦牟尼如來及び多寶佛は、其の塔中に於て座を同ふして坐し玉ふと想へと説き、(7)遍照如來は、諸の菩薩の爲に、眞言秘密法の供養を宣説し玉ふた。諸の世間の供養中に於て、法供養を以て最勝と爲すとあり、(8)印及び眞言の不思議加持の願力法中より、無量無邊の優香雲海を流出し、遍く諸佛菩薩の一切聖衆の淨妙色身、及び其の剎土に墜つ、此の法を作すに由つて、現當來世の戒・定・慧・解脫・解脫知見の五無漏道の法身の香を獲得すと述べてある。(9)實相の三摩地に入つて、一切法は幻の如く、因縁和合して生

ずと觀するに依つて、一切有情は無所得を以て方便と爲すと知り、一切法は陽焰の如しと觀すれば、上は淨妙佛剎に至り、下は雜染世界に至るまで、亦無所得を以て方便と爲すと知るなどと説いてある、茲に方便とは、修行の方法の意である。(10)圓明滿月の面上に於て、五胎金剛の智杵あり、漸く遍舒して法界に普周し、淨光明を以て一切有情界を照燭し、客塵煩惱、自他清淨ありと觀ずとあり、(11)復此の金剛杵は、轉じて普賢大菩薩の身と成り、光明皎潔にして、猶ほ月殿の如く、五佛の冠を戴き、天衣瓔珞を以て自ら莊嚴し、項背に月輪あり、白蓮華王を座と爲し、右手に菩提心の五胎金剛杵を持して、心上に安し、右手に般若波羅蜜の金剛鈴を持して時に安すとあり、(12)又普賢菩薩の三摩地の印を結んで、文殊師利菩薩の般若波羅蜜の三解脱門に入るべし、謂ゆる空三摩地に入つて、運心して法界に遍周し、豁然として一法の得可きもの有ることなし、須臾の頃に於て、澄心靜慮、此の觀門に住す、此の三摩地に入るに由つて、一切の見を滅除して、空執を除かんが爲に、則ち無相の三摩地に入れば則ち無願三摩地に入る云々とあり、(13)此の陀羅尼の文字を以て、右旋して心月輪の面上に布列すれば、一一の字を觀するに、皆な金色の如し、一一の字の中より、光明を流出して、遍く無量無邊の一切世界を照し、良久しく心を用ふれば、心は散動せず、則ち一一の字に於て、實相の義

名所行發 (名庫書) 著藏所現 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書末 說解容内 代年作者 著者 缺存 數卷 (名書) 名題 號略字數

門を思惟す、又一の字中に皆な阿字の義門ありて、一切法不生不滅等の義を詮すとあり、(14)舌端に於て、八葉蓮華あり、華上に佛あり、結跏趺坐して、猶ほ定に在るが如く、妙法蓮華經の一一の文字は、佛口より出でて、皆金色と作り、具に光明有りて、遍く虚空に列すと想へ、一一の字皆變じて佛身と爲り、遍く虚空に満て、持經者を圍繞すと想へ云云、(15)法身眞如觀に入れば、一縁一相、平等にして、猶ほし虚空の如し、若し能く專注して無間に修習すれば、現生に則ち初地に入り、頓に一大阿僧祇劫の福智の資糧を集む、衆多の如來に加持せらるるに由るが故に、乃し十地、等覺・妙覺に至るまで、薩婆若(Sarvajñāna 一切智)を具し、自他平等にして、一切如來の法身と共に、常に無縁の大悲を以て、無邊の有情を利樂し、大佛事を作すとあり、(16)一切聖衆は、同一法界なり、無來無去にして、願力成就し、當に靈鷲山中に在るべし、則ち起て遍く一切諸佛菩薩を禮し、右の膝を地に著けて、普賢行願一遍を誦じ、則ち起て衆堵波を旋繞し、或は經行し、四威儀に於て、心を阿字觀門に住せしめ、勝義の實相般若波羅蜜門に入れ、念々に遍く一切有情を緣じ、三界六趣の四生、願くは妙法蓮華經王を獲得して、聞・思惟・修習に於て、速に無上正等菩提を證せんことを述べて、全編を結んである。右十六項は本儀軌中で、讀者の注意を促す可き一節づつを抄録したのであるが、(15)の法身眞如觀の如きは、弘法大師も其の作中に引用されて居る

程である。此等十六項を通讀する時に、其の間に一貫した聯絡も見出し難いのであるが、而も法華經の中心思想を補ひ來つて、之を大日經と金剛頂經との二大思想に合様することを目論見立てて居ることが觀取せられるのである。法華經其のものを單なる會三歸一の法門と見ずに、之を法華三昧の行者の心連の一大寶塔と見做し、行者は其の心蓮華臺中に現はれる遍照如來から、十方世三一切の諸法に通徹する阿字本不生の實義を聽取し、行者自身は普賢菩薩であるとして、其の眞心の誓願を日夜に思念することに依つて、妙法蓮華經王を行者自身の心として身として體驗することを明してある所は、確た純密教の面目を充分に發揮してある。

成就妙法蓮華經儀軌

①(日)Jo-in-yō-hō-ren-ge-hyō-shi-ki. 成就妙法蓮華經王瑜伽觀智儀軌 ②一卷 ③存

平安朝時代寫 ④(寶菩提院) ⑤成就妙法蓮華經王瑜伽觀智儀軌 ⑥一卷 ⑦存

成就妙法蓮華經次第

①(日)Jo-in-yō-hō-ren-ge-hyō-shi-dai. ②一帖 ③寬朝(延喜一六—長徳四 A. D. 916—998)

④(參考) 諸宗教錄第三 ⑤成就妙法蓮華經 ⑥(日)Jo-in-yō-hō-ren-ge-hyō-shi-dai. ⑦一卷 ⑧存、已損 ⑨九・三 ⑩唐不空(神龍元一—大曆九 A. D. 705—774)

成就夢想法

①(日)Jo-in-yō-hō-ren-ge-hyō-shi-dai. ②一卷 ③存、已損 ④九・三 ⑤唐不空(神龍元一—大曆九 A. D. 705—774)

⑥この法は善夢を成就し、惡夢を除去して心神安樂なることの作法を示したものである。この作法は淨室の中に一方壇を設け、その壇上に香・華・油燈・飲食・菓子・蘇蜜・歡喜園等の供物を辨備して、佛眼尊・文殊師利菩薩・妙幢菩薩及び其の眷屬、北斗七星、九執二十八宿十二宮・十二天王・二六神・諸龍・藥叉・羅刹等、山王・河王・大樹王など有らゆる十方の大善神を、その壇場に勧請して壇上の供物を獻し、好夢を成就しやうとする時には、佛・法・僧の三寶と、文殊と妙幢と北斗星と十二天王と諸の星宿とに歸依し、唵阿味羅囉呼佉左囉(Om a-mi-ra-hui khui sa rah)の眞言を誦じて文殊師利菩薩及び妙幢菩薩等を念じ、若しくは臥する時に、この眞言一百八遍を誦すれば、常に好夢を得て、善惡の事を豫知することを得、若し吉夢を得て、之を成就せんと欲する者は、飲食を加持して、七遍に食する者は、久しからずして、その吉夢を成就することを得、若し惡夢を滅滅せんと欲する者は、大威徳明王の呪の唵瑟哩迦囉囉跋呼欠薩囉阿(Om sri kṛa rpa huḥ kraṁ svāḥ)を唱へ、且つ命木にて人形を作り、彼の人の名を書して、加持すること七返し、三日の間、之を行じ已つて、彼の人形を山野若しくは大河邊に置くときは、不祥消滅し、心神安樂なることを得と説いてある。諸尊を勧請するに大鈎召の印言を用ひ、又諸尊に供物を獻するに、普供養の印言、並に施食の印言などが用ゐられてある。⑦寫本(京大・藏・一六・一) ⑧(神林隆淨) ⑨寫本(京大・藏・一六・一) ⑩(弘仁五—寛平三 A. D. 81—89)述

金剛頂瑜伽成身私記の下を見よ。⑦(參考) 密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

成身私記

①(日)Jo-shin-shi-ki. ②一卷 ③存、相成身私記、五相成身記 ④一卷 ⑤大正七六・七八三No. 2403 ⑥覺超(天曆九—長曆元 A. D. 985—1037)撰 ⑦長和二(A. D. 1031)三月 ⑧五相成身私記の下を見よ。⑨(參考) 本朝台祖撰述密部書目

⑩寶曆六寫 ⑪(谷大、餘大・三〇一七) ⑫成身拾遺文集 ⑬(日)Jo-shin-shi-ki. ⑭五相成身拾遺文集 ⑮一卷 ⑯存 ⑰道覺(元久元—建長二 A. D. 1204—1250)

成身拾遺文集

①(日)Jo-shin-shi-ki. ②一卷 ③存

④本書は青蓮院西山道覺親王(A. D. 1204—1250)の撰述である。本書は道覺親王自作の序文に記するが如く都率僧都覺超の撰に係る成身文集の拾遺補闕を目的とする書である。序文の終りに「于時建長首元丁酉歲初冬下旬庚申日觀嶽小隱道覺偷述懷云爾」と記して居る、而し親王は同年九月天台座主職を隱退して居るから此の書は治山三年の座主職たるの前後の所作となるのである。本書に引用する儀軌は六軌である。瑜伽供養次第法、大悲成就儀軌、青頸觀音儀軌、多羅菩薩法、馬頭觀音儀軌、金剛王儀軌、已上。因に寶靈の説には此の外五字文殊軌等にも五相成身を出せり重て加へて可ならん乎此にては未だ諸軌を盡さず云々と云つて居る。序でに道覺親王の略傳を述べれば、親王は後鳥羽院の皇子にして母は法眼顯清の女、元久元年生る。承元二年九月晦日五歳の

時親王宣下、朝仁親王と云ふ。建長四年六月二十日十三歳にして受戒す。大僧正慈圓(慈鎮和尚)の入室の資となり受法灌頂す、青蓮院西山宮と號す。親王は後深草天皇寶治元年三月二十五日四十四歳にして座主慈源隱退の後を受けて栗田より入りて第八十世の天台座主職に任ぜらる、其の間同年七月十日には護持僧に宣下せられ同年九月五日には今出川殿に於て中宮御産御祈の爲め七佛藥師法を修し、又同年三月四日上皇日吉御幸に際しては座主道覺旨を奉じて論功行賞をなし、又同年十月二十一日變異に依つて禁中に於て熾盛光法を修した、間もなく建長元年九月五日天台座主職を隠退した、即ち治山三年である。次で翌建長二年正月十一日入滅した、時に四十七。因に栗田青蓮院門跡は承久の亂によりて一度妙香院僧正良快入りて第四世を管領したるも後道覺親王襲うて第五世を管領した、後世之を西山の宮派として栗田の正系とする。親王の滅後栗田を圍りて後永く一大爭論史を展開するが夫れは實に親王の付屬狀に其の端を發するのである。親王の撰述としては他に淺略鈔四卷が現在する。(岩田教圓)

成身文集 ①(日) Jo-shin-mon-jū. ②三卷 ③存 ④覺超(天曆九—長曆元 A. D. 935—1037)

⑤本書は兜率禪定信都覺超の撰であつて上下二卷に調卷してある。本書は金界大法の肝心なる五相成身に關する文證を本經本軌等十有八部の中より廣く抄出列舉したもので諸説の不同、生起の次第等一目瞭然誠に

重寶なる書籍で事相研究上秘藏すべきものである。書名は五相成身に關するの意である、本文集は同じく僧都の撰述なる成身私記とは姉妹篇の如きもので私記を見るには是非本文集を必要とする。今本書に引用したる經軌は、上卷引用のものは金剛頂經華部心念誦儀軌、略出經四卷本、金剛頂經瑜伽修習毘盧遮那三摩地法、教王經、義釋、諸佛境界攝眞實經、十八會指歸、千手修行軌、觀自在王如來軌、法華軌、次に下卷引用のものは文殊儀軌、普賢金剛薩埵軌、理趣會軌、尊勝佛頂眞言修瑜伽法儀軌、菩提心論、心地觀經、守護國界主陀羅尼經、善無畏三藏祕訣、已上。因に道覺親王の撰なる五相成身拾遺文集一卷は經軌の引文を拾遺補關したるもので本書と共に見るべき書である。

成身略記 ①(日) Jo-shin-ryak-ki. ②一卷 ③存 ④覺超(天曆九—長曆元 A. D. 935—1037)

⑤兜率覺超の撰である。其の内容は先淨三業、次護身、次禮本尊諸尊、次長跪合掌機悔偈、次着座、次五大願、次普賢三昧耶、次普供養印明と已上紙數僅かに一紙極めて短かきものである。而して此の成身略記一卷は同じく僧都の撰成身私記一卷の卷末に合卷となつて居り、且つ文中最後の「次普供養印明」の下に於いて其の印と明とを記したるのみにて斷絶して居る。然るに彼の成身私記の最後の「第四私述懷」の項下に於て僧都自作の略觀を作るとして已下之を説いて居るのであるが、彼此對照するに惟

ふに其の略觀の文の初めに今の略記を加ふれば首尾相俟つて初めて成身略記一部をなすべきものと思はるゝのである。即ち成身私記「私述懷」の文に云く「第四私述懷者上來廣述諸文意了今依傳受蓮花部心軌隨自意樂私作略觀先作是念一切衆生沒在苦海云云」とあり、文中の「略觀」とは恐らくは今の普供養印明の下「先作是念」已下の文を加へたる所の成身略記を指すの意にして、換言すれば成身略記一卷の中より「先作是念云云」の文を引用したるものと思はるゝのである。

⑥【參考】山家祖德撰述篇目集卷下、密乘撰述目錄、諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目 ⑦寫本(南溪藏) (岩田教圓)

成信記 ①(日) Jo-shin-ki. ②一卷 ③存 ④寫本(龍大、一〇五五・六六)

成眞記 ①(日) Jo-shin-ki. ②一卷或二卷 ③存 ④元祿一二寫(高大、一・六四) 享保一五寫(谷大、餘大・二九一五)

成眞記 ①(日) Jo-shin-ki. 成眞記松橋流 ②二冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)(金剛三昧院)

成尋所記入宋諸師傳考 ①(日) Jo-jin-sho-ki-ni-yus-to-sho-shi-den-ko. ③存、大日本佛教全書第一一五遊方傳叢書第三 ④高楠順次郎編

成道降魔得一切智經 ①(日) Jo-do-gō-da-to-ku-is-sai-chi-kyō. (支) Ch'eng-teo-hsiang-mo-te-i-chieh-chih-ching. 無量門微密持經、微密持經 ①一卷

③存、大正一九・六八〇No. 1011、縮成九、己一一・一、北386知、南331知、元332知、明北331英、清331英、麗335良、天333知、指298良、法330男、至357善、明南330男、元335 ④吳支謙譯 ⑤黃武二—建興二(A. D. 223—253) ⑥無量門微密持經の下を見よ。

成敗品經 ①(日) Jo-hai-bon-gyō. (支) Ch'eng-pai-p'in-ching. ②一卷 ③缺 ④失譯 ⑤【參考】出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

成不成問答 ①(日) Jo-fu-jō-mon-jō. ②一卷 ③最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)撰 ④【參考】本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

成佛示心 ①(日) Jo-butsu-jō-shin. ③存、眞言宗安心全書第四行者用心篇 ④淨空(元祿六—安永四 A. D. 1693—1773)述 ⑤阿字の功德、その觀法を和文にて平易に説いた書。在家出家の者共にこれを成佛の用心とすべきことを勸誡してゐる。奥に寶曆十年辰之春應三紀州黃門公之請、阿字觀方軌奉授之、相次談及、此和語鈔、約、清書贈之、未、果、明和三年季冬十三、煤掃之日自、古紙堆中、得之想、像紀君對談之昔、不覺淚下、於是清書諷誦佛、菩提心院殿如在微供、伏乞神靈納受と自記してある。

⑥明治一二刊(吉堀慈恭改刻) ⑦(帝國、一四一・一九六) (小田慈舟)

成佛寺事蹟 ①(日) Jo-butsu-ji-jō-seki. (支) Ch'eng-fō-sā-shih-chi. ②一卷

③存 ④〔參考〕朝鮮佛教總書刊行豫定書目
成佛直路 ①(日)Jo-butsu-jiki-ro.
成佛の直路 ②1卷 ③存 ④慈等 一文
政二A.D. 1819)述 ⑤〔參考〕山家祖德
撰述篇目集卷下

成佛諍緣起集 ①(日)Jo-butsu-jō-
eng-shū. ②1卷 ③最澄(神護景雲元—
弘仁三A.D. 767—822) ④〔參考〕本
朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集
卷上

成佛圖 ①(日)Jo-butsu-zu. (支)Ch'i-
eng-to-tu. ②1葉 ③存 ④明智旭(萬
曆二七一永曆九A.D. 1599—1655) ⑤〔龍
大、別置〕

成佛の直路 ①(日)Jo-butsu-no-jī-
ki-ro. 成佛直路 ②1卷 ③存 ④慈等
(一文政二A.D. 1819)述 ⑤寛政三刊(谷
大、餘大・一九六九)(龍大、二〇九九・二六
六)(正大・一三九五・五二)明治二五刊(谷大、
餘大・一五五)

成菩提 ①(日)Jo-bo-dai. 成菩提集
②勝範(長徳一一承暦元A.D. 995—1077)
撰 ③〔參考〕本朝台祖撰述密部書目

成菩提集 ①(日)Jo-bo-dai-shū. 成
菩提 ②勝範(長徳一一承暦元A.D. 995
—1077)撰 ③〔參考〕密乘撰述目録、山
家祖德撰述篇目集卷下

成菩提集 ①(日)Jo-bo-dai-shū. 瑜
伽抄 ②四卷 ③存 ④蓮實坊永範撰
⑤諸尊法の類聚にして台密各流に用ひるも
の。各尊共に梵號・密號・種子・三形・印明・
尊形・曼荼羅・功能等に諸種の事項について

記してゐる。第一佛部に大日・釋迦・藥師
(付七佛藥師)・彌陀・尊勝・一字金輪・佛眼・
熾盛光・諸佛頂・阿閼・延命・無量壽決定如
來・定光の十三、第二菩薩部に普賢・文殊・
六觀音・聖觀音・千手・馬頭・十一面・不空・
索・准提・如意輪・白處尊・白衣大白衣・白身・
大白身等・藥衣・毘俱伽多羅・大隨求・大勢
至・地藏・虛空藏・耶輸陀羅(附五大虛空藏)
彌勒・淨名・藥王・持世・馬鳴・龍樹・放光・水
月觀音・延命、第三金剛部に不動・四臂不
動・俱哩迦・藥師尼・蓮花吉祥女・愛丘滿願・
降三世・軍荼利・大威德・金剛夜叉・金剛部
母・弄莫・維多・大輪・無能勝・烏瑟瑟摩・金
剛童子・孔雀明王・愛染王・大元明王、第四
天等部に毗沙門・兜跋・吉祥天・最勝太子・梵
天・帝釋天・伊舍那天・大自在天・那羅延天・
都史多天・淨居天・持國天・增長天・廣目天・
四天王通印等・日天・月天・火天・水天・付諸
龍・風天・炎魔天(付五道大神太山府君茶吉
尼等)・羅刹天・地天(十二天八方天等)・三兄弟
四姊妹法・七曜九執・北斗七星(付妙見)・二十
八宿・十二宮・十二神・三十六禽・摩利支・辯
才天・迦樓羅天・歡喜天・深沙大將・阿梨母母
の諸尊を収めてゐる。但し第一佛部は現流
本に尊勝已下の諸尊を缺いてゐる。然して
本朝台祖撰述密部書目には「成菩提・蓮實坊
(勝範)記」としてその細註に「阿サハ抄所
引、或目録云、佛部正覺抄、菩薩部大心抄、
忿怒部教令抄、天部提婆抄、共諸尊法記也、
葛川藏有之、批云、寶幢院永範(勝範)資」
云、成菩提集本書五十卷也、今私様於四
帖、後人知之、略引、批文言廣故云、榮範

類聚、右兩藏本内、葛川本天部二冊見之、
成菩提集抄本也、故彼文云、已上提婆抄抄
之云云」と云ひ、又石山寺古寫本奥書には
「嘉保四年季夏之初、於室町御房書寫之畢
云云。比睿山西塔院求法佛子永範、改顯宗
五時八教之道、入密教兩界三部之宗、先師
大和尚撰集之成菩提集、於京御房拜見之、
其次書寫之畢、但御筆之本書未再治之書
也、仍要事之次等粗似有前後違亂、任愚見
所々治定之、頗與本書有異、又後私書加
之、或餘人之集書削之、是不望他見、只爲
一身之愚要也、敢不可出於門閭、但事之初
文之首、以朱著三點者、偏先師之御製也、
著二點者餘人之集制載之、著七點者皆見書
之、慮外見此書倫者、委察此旨勿令混濫令
人成菩提集中授令抄本書十卷也、今私様一
帖、後人知之」とあるより見れば、阿勝範
のものを永範が抄出したものなることは明
かである。

④天明八寶雲寫(叡山文庫)古寫殘缺本(石
山寺藏)寫本(南溪藏) (小田慈舟)

成唯識應抄 ①(日)Jo-yui-shiki-ō-
shō. 成唯識論應抄 ②五卷 ③〔參考〕東
域傳燈目録卷下

成唯識記 ①(日)Jo-yui-shiki-ki.
(支)Ch'eng-wei-shih-ki. ②二卷 ③義
宣述 ④〔參考〕注進法相宗章疏錄

成唯識義暉 ①(日)Jo-yui-shiki-gi-
shū. 成唯識論義暉 ②1卷 ③缺 ④行賀
(天平元—延暦二二A.D. 729—803)述 ⑤
〔參考〕注進法相宗章疏錄

成唯識義燈 ①(日)Jo-yui-shiki-gi-
tō. (支)Ch'eng-wei-shih-t'eng. 成唯識了
義燈、成唯識論了義燈、了義燈、義燈 ②
七卷或十三卷 ③存、大正四三・六五九Z。
1832、己續一・七八・一一二 ④唐惠沼(一
開元二A.D. 714)述 ⑤成唯識論了義燈
の下を見よ。 ⑥〔參考〕奈良朝現在一切
經疏2374

成唯識決 ①(日)Jo-yui-shiki-ke-
tsu. (支)Ch'eng-wei-shih-chieh. 成唯識論
決 ②三卷 ③唐勝莊(一長安三一先天二
A.D. 703—713)述 ④〔參考〕注進法
相宗章疏錄

成唯識論說 ①(日)Jo-yui-shiki-ron-
setsu. 成唯識論講說 ②五卷 ③存 ④
義讓(寛政八—安政五A.D. 1796—1835)
述 ⑤寫本(龍大、二四三四・一一)

成唯識述記講錄 ①(日)Jo-yui-
shiki-jūki-kyō-ryō. 成唯識論述記講錄
②1卷 ③存 ④吉谷覺壽(天保一三—大
正三A.D. 1842—1914)述 ⑤寫本(龍大)
成唯識述記分科 ①(日)Jo-yui-
shiki-jūki-ki-bun-ka. 成唯識論述記分科
②二卷 ③存 ④(京事)

成唯識疏三箇鈔科 ①(日)Jo-yui-
shiki-sho-san-ga-no-shū-ka. ②1卷